

〔創造部門〕

1. 氏名 かわさき きちこ 川崎 幸子 (博多人形師)
2. 年齢 78歳 ※R3.11.1現在
3. 住所 福岡市



【経歴及び選考理由】

昭和 37 年、博多人形師であった父、川崎虎雄に入門。以来 58 年間の長きにわたって、博多人形の制作業務に従事。

日本の古代史を題材に、女性の内面に秘められた強さや激しさを表現する独自の作風を確立。今なお万葉集や古代史の講座を受講するなど、氏の作品は深い理解のうえに成り立つ。あわせて、常に新しい技法を研究しており、数種類の粘土を混ぜ合わせることによって独特の質感を生み出すなど優れた彩色技能を有する。氏が得意とするのは、人形の肌を一般的な「美人もの」のように白塗りせず、素焼きの風合いを生かした「すっぴん美人」に仕上げる技法で、「この方が古代女性らしい雰囲気になる」と、35 年以上もこの技法を磨き続け、数多くの作品展で賞を受賞。博多人形の世界に新たな分野を開拓してきた。

平成 20 年には、国、福岡県、博多人形商工業協同組合で実施した「大きな博多人形制作事業」に参加。約 1 年を費やし制作された博多人形「卑弥呼」は高さ 155 cm にも及ぶ。平成 23 年から JR 博多駅構内で展示され、県民をはじめ福岡を訪れる多くの観光客に博多人形の素晴らしさを伝えている。このような高い技術や活動歴を評価され、これまでに卓越した技能者表彰（平成 28 年）や博多人形師としては初めてとなるものづくり日本大賞内閣総理大臣賞、春の叙勲瑞宝単光章（いずれも平成 30 年）を受賞。

一方、昭和 63 年には博多人形研究団体「博多人形作家協会」に入会し、後継人形師の指導教育にも力を入れる。氏の下からはこれまで 3 名が独立しており、作品展でも優秀な成績を残している。

このように、氏は、博多人形師として、地域に残る伝統文化の継承・発展及び後継者の育成等にも積極的に取り組んでおり、県民文化の振興に大きく貢献している。

【主な受賞歴】

昭和 46 年 博多人形競作展 第 1 回与一賞
昭和 50、57 年 日本伝統工芸展入選
昭和 52、55 年、平成 2、6、26、28、29、30 年、31 年
新作博多人形展 経済産業大臣賞
平成元、18、27 年、令和 3 年
新作博多人形展 内閣総理大臣賞
平成 28 年 卓越した技能者表彰（厚生労働大臣表彰）
平成 30 年 第 7 回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞
※博多人形師として初受賞
春の叙勲 瑞宝単光章



作品名「大きな博多人形『卑弥呼』」

(参考) 創造部門：個性的、創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上、発展に貢献したものの